

## ロールシャッハ・テストの体験型と TAT 反応の関係

山下 京子

(2005年10月4日 受理)

The relationship between a coping style in the Rorschach Test and the TAT narratives

Kyoko YAMASHITA

### Abstract

In this survey, I conducted the Rorschach Test and the Thematic Apperception Test (TAT) with 100 women college students as subjects, and analyzed the Rorschach Test by using the Comprehensive System (Exner, 2001) and TAT by using the response classification framework by Suzuki (1997). Based on the result of the Rorschach Test, the subjects were classified into 3 types of a coping style. 26 subjects were ambitent styles, 49 subjects were introversive styles and 18 subjects were extratensive styles. 7 subjects were excluded because their protocols had an EA less than 4.0. So 93 subjects were eligible for the analysis. Among TAT cards, focus was made upon mother and child relationship as well as aggression based on the result of Yamashita (2003), 4 cards of Card 5, 7 GF, 8 BM, 18GF were selected, and details of response for each card were categorized by using Suzuki's framework. Hypothesis in this survey is that, if the coping style in the Rorschach Test is different, TAT response will show a story with different details. The result was that there was a difference in TAT response by coping style in Card 5 and 18 GF, but there was no difference by coping style in Card 7 GF and 8 BM. An assignment for the future is to analyze remaining TAT cards and accumulate data to clarify the difference of the TAT responses by coping style by means of classifying the coping style furthermore.

### 1 問題と目的

本研究は、TAT とロールシャッハ・テスト（以下ロ・テストと略）の関係を、TAT については鈴木（1997）の反応カテゴリーを、ロ・テストについては包括システム（Exner, 2001）を用いて明らかにしようとしたものである。同一被験者に対して施行されたロ・テストと TAT の結果が、どのように関連しているかを扱った研究としては、Ackerman ら（2001）や Kelly（1997）があるが、いずれも TAT については SCORS（Westen, 1991）を用いた形式的分析を行っ

ている。山下（2004）は、53名の大学生女子に対して TAT とロ・テストを実施し、TAT に対しては SCORS を、ロ・テストには包括システムを用いて、SCORS の 4 変数とロ・テストの変数をステップワイズ法による回帰分析を用いて比較している。その結果、両検査の変数間には有意な関係が見出されたが、ロ・テストの変数の特徴は、必ずしも SCORS 得点に反映されないことも明らかになり、TAT 反応の形式的側面だけでなく、内容的側面を検討すべきことが示唆された。さらに、山本（1992）も指摘するように、TAT 反応は図版刺激特性に強く依存すると言う特徴を持っていることを考慮するならば、各図版における反応内容について検討する必要があると考えられた。

TAT の内容的側面に注目したカテゴリーとしては、鈴木（1992）の反応カテゴリーをあげることができる。山下（2003）は、鈴木（1992）の反応カテゴリーを用いて、大学生女子54名の TAT 反応を分析し、青年期女子の心理的特性を示す対象関係を見出した。中でも数枚の図版には、青年期女子に特徴的な攻撃性の表現と母子関係のあり方が見出された。そこで、本研究では、攻撃性と母子関係に焦点を当て、山下（2003）の結果を参考にして、TAT 図版から、カード5, 7GF, 8BM, 18GF の 4 図版を選択し、各図版の反応内容を取り扱うことにした。

TAT と精神医学的分類診断との関係について、山本（1992）は、統合失調症、神経症、正常という大まかな分類を行う限りにおいては、TAT 反応の形式的特性は有効であるが、TAT 反応の内容的特性との直接的な関係は先行研究において明確ではないことを指摘している。このことをふまえ、本研究では、ロ・テストの体験型の違いに着目し、体験型による TAT 反応内容の差を検討することを目的とした。

## 2 方 法

**被験者** 心理学系専攻大学生女子100名を対象とした。

**手続き** 個別に TAT とロ・テストを施行した。両検査の施行時期はほぼ同時期であった。ロ・テストは包括システムによる手続に従い、TAT は鈴木（1992）の教示に従い実施された。本研究で使用了 TAT 図版は、Murray（1943）にほぼ従い、次の20枚の図版であった。すなわち、1, 2, 3 BM, 4, 5, 6 GF, 7 GF, 8 BM, 9 GF, 10, 11, 12F, 13MF, 14, 15, 16, 17GF, 18GF, 19, 20であった。ロ・テスト反応は包括システムによるコーディングを行った。TAT 反応に関しては、図版5, 7GF, 8BM, 18GF の 4 枚について、鈴木（1992）の反応カテゴリーによる分類を行った。各図版の反応カテゴリーを表1, 2, 3, 4 に示した。

表1 カード5の反応分類 (鈴木, 1997)

反応カテゴリー
<p>I：画中の人物が部屋の中を見る動機がおもに問題とされ、室内での意外の出来事とそれに対する激しい恐怖・驚愕が述べられていないもの</p> <p>i：画中の人物は部屋の主、あるいは部屋にいる（はずの）人を目当てに来たとするもの</p> <p>1：伝えるべき用件があって来たとするもの</p> <p>A：奉仕的意味合いの用件</p> <p>a：食事（おやつ）に来るように呼びに来た</p> <p>b：a 以外</p> <p>B：指示・命令的意味合いの用件（用事を頼みに来たなど）</p> <p>C：A、B 以外（単に「呼びに来た」「用件があって来た」などとするもの）</p> <p>2：部屋主の様子をうかがいに来たとするもの</p> <p>A：部屋主を気遣っての来室</p> <p>a：夜の見回り（習慣的な）</p> <p>b：部屋主の精神的・身体的異変（の兆候）を心配しての来室</p> <p>c：a、b 以外（心配で見に来た）</p> <p>B：部屋主の管理・監督を目的とした偵察</p> <p>a：子どもがしっかり勉強しているかどうか見に来た</p> <p>b：a 以外</p> <p>C：A、B 以外（単に様子を見に来た、何をしているか見に来たとするものなど）</p> <p>3：叱る（さとす）目的で来たとするもの</p> <p>4：（他所にいないので）捜しに来た（所在を突きとめに来た）が、やはりいなかったとするもの</p> <p>5：いなくなった人（亡くなった子どもや夫、嫁いで行った娘など）の部屋を、その人がいるような気がして覗くとするもの</p> <p>6：1～5 以外</p> <p>ii：部屋主を目当てに来たのではないもの</p> <p>1：不信な物音（まれに灯り）に、怪しい侵入者（泥棒など）がいるのではないかと見に来た</p> <p>2：部屋の管理・点検</p> <p>3：部屋主が不在の間の盗みや密偵</p> <p>4：必要な物を取りに（捜しに）来たとするもの</p> <p>5：1～4 以外</p> <p>II：来室の動機より、室内で生起している異常な事件・現象とそれに対する人物の恐怖・驚愕反応に問題の重点が置かれているもの</p> <p>i：部屋主の死</p> <p>ii：部屋主の病気・負傷</p> <p>iii：部屋主の失踪（誘拐など）</p> <p>iv：部屋主の内密の行為の目撃</p> <p>1：性的行為の目撃</p> <p>2：1 以外</p> <p>v：侵入者がいた（いた形跡があった）</p> <p>vi：不思議な現象（超常現象）が起こっていた</p> <p>vii：i～vi 以外</p> <p>III：I，II 以外</p>

表2 カード7 GFの反応分類 (鈴木, 1997)

反応カテゴリー
<p>I: 成人女性の働きかけに対する少女の非受容（反発や無反応など）が問題になっているもの</p> <p>i: 「勉強を教える」あるいは教養教育として本を読み聞かせる</p> <p>1: 少女の非受容に特別な背景的事情がないもの（わがまま、勉強嫌い、遊びの欲求などのゆえの非受容）</p> <p>2: 少女の非受容に特別な背景的事情があるもの</p> <p>A: 愛情の欲求不満</p> <p>B: 少女は成人女性が嫌い</p> <p>C: 病弱（外に出してもらえない）</p> <p>D: A～C以外</p> <p>ii: 特殊な教育</p> <p>1: 治療教育・障害児教育（少女は障害児・問題児）</p> <p>2: 育児・子守り教育</p> <p>iii: 慰め・なだめ・御機嫌とり</p> <p>1: 少女は成人女性に対しむくれ（すね）ている</p> <p>2: 1以外</p> <p>iv: 説得・説教や追求（すべての場合、少女は成人女性に反発・反抗している）</p> <p>1: 少女が抱いている赤ん坊・人形に関しての説得や追及</p> <p>A: 少女が大事に抱いている赤ん坊・人形を手放すようにという説得（に対する少女の反抗）</p> <p>B: A以外</p> <p>2: 1以外</p> <p>v: 悪意を含んだ働きかけ（悪いことを吹き込む、など）</p> <p>vi: i～v以外</p>
<p>II: 成人女性の働きかけに対する少女の非受容（反発や無反応など）が認められないもの</p> <p>i: 成人女性が本を読み聞かせ、少女はそれに耳を傾けている</p> <p>ii: i以外（少女の抱いている赤ん坊・人形についての会話など）</p>
<p>III: 少女に対する成人女性の明瞭な働きかけが認められないもの（赤ん坊に本を読み聞かせる、赤ん坊のことを心配している、など）</p> <p>i: 少女の内閉や不機嫌を述べているもの</p> <p>1: 少女は抱いている赤ん坊に無関心であるとするもの</p> <p>2: 1以外</p> <p>ii: 少女の内閉や不機嫌を述べていないもの（二人ながら思いおもいに時を過ごしているという趣）</p> <p>1: 成人女性は読書をしているとするもの</p> <p>2: 1以外（成人女性は赤ん坊に関心を向けている、など）</p>

表3 カード8 BM の反応分類 (鈴木, 1997)

反応カテゴリー
<p>I： 前景の人物がおもに後景の手術・殺傷される人と関係付けられているもの</p> <p>i： 手術・殺傷される人の苦しみ・痛みに対する前景の人物の共感・共体験があるもの、あるいは、あると判断されるもの</p> <p>1： 前景の人物が受ける（受けた）手術や加害行為</p> <p>2： 前景の人物の関係者が受ける（受けた）手術や加害行為 A： 手術 B： 加害行為（生体実験・殺害など）</p> <p>ii： 手術される人の苦しみ・痛みに対する前景の人物の共感・共体験が認められないもの（安否に無関心、死を願うなど）</p> <p>1： 前景の人物が殺傷した（おもに「故意に撃った」）人の手術</p> <p>2： 1 以外</p> <p>iii： 前景の人物を手術・殺傷される人の過去（在りし日）の姿、あるいは手術・殺傷される（する）人の心に浮かんだ心像・幻影とするもの</p> <p>iv： i ～ iii 以外</p> <p>II： 前景の人物を後景の手術・殺傷する人と関係付けているもの、あるいは直接的に関係付けていなくても、手術・殺傷する側に位置付けているもの</p> <p>i： 手術・加害行為が前景の人物にとって、自我親和的（ego-syntonic）であると判断されるもの</p> <p>1： 手術 A： 医学を志す青年の決意・野心を述べたもの B： 前景の人物はすでに医者（看護婦）となっている</p> <p>2： 加害行為 A： 前景の人物が人を殺傷する場面を能動的に空想しているとするもの B： 前景の人物の仲間・同僚が殺傷しているとするもの</p> <p>ii： 手術・加害行為が前景の人物にとって、自我異和的（ego-alien）であると判断されるもの</p> <p>1： 手術 A： 医学を志す青年の迷い・ためらいを述べているもの B： A 以外</p> <p>2： 加害行為 A： 身近な人（父親）がする加害行為を目撃した衝撃を述べているもの B： 前景の人物自身が関与した加害行為の罪悪感を述べているもの</p> <p>III： 前景の人物は後景の手術・殺傷する人びとの側にも、される人の側にも属していないもの、あるいはどちら側にも属しているか判断不能のもの</p> <p>IV： 前景の人物の存在を処理し得ていないもの（言及していないものも含む）</p>

表 4 カード 18GF の反応分類 (鈴木, 1997)

反応カテゴリー
I: 年配女性の行為を倒れた (倒れそうな) 人への介抱・介助の行為と捉えているもの
i: 介抱される人は死ぬ, あるいは取り返しのつかない状態になるとするもの
1: 階段からの転落を死・瀕死状態の直接的原因としているもの
2: 階段からの転落に言及していないもの
ii: 介抱される人の死・瀕死状態に言及していないもの
1: 階段から転落したとするもの
2: 転落への言及がないもの
II: 年配女性の行為を殺す, あるいは責める行為とみなしているもの
i: 殺そうとする
1: 愛しているが殺す, あるいは愛すればこそ殺す
2: 1 以外
ii: 叱る・責める
1: 愛すればこそ叱る・責める
2: 1 以外
III: I, II 以外
i: 左の人物を死体・人形とするもの
1: 亡くした (ほしい) 子の代理としての人形を大切にしている
2: 愛する人 (子・親) の死が信じられず, 死体を生けるが如く扱っている
ii: 愛撫の行為と見ているもの
1: 同性愛
2: 異性愛
3: 肉親間の情愛表現
iii: 哀願・懇願の行為
iv: 目や歯の点検
v: 介抱・介助の行為か攻撃の行為か決めかねているもの
vi: i ~ v 以外

### 3 結 果

#### 1) ロ・テスト結果

各被験者のロ・テスト反応について, 包括システムに従いコーディングを行ったものをもとに, 被験者ごとに構造一覧表を作成した。構造一覧表に作成された各種変数のうち主な変数を選択し, 被験者別に表 5 に示した。EB (左辺): EB (右辺) から, 不定型, 内向型, 外拡型の 3 タイプに分けたところ, 不定型 30 名, 内向型 51 名, 外拡型 19 名であった。3 タイプそれぞれの主な変数の平均と度数分布を表 6, 7 に示した。表 6 をもとに, 1 要因分散分析を行ったところ, LAMBDA を除き, R ( $F=5.858$ ,  $df=2$ ,  $p<0.005\%$ ), M ( $F=27.565$ ,  $df=2$ ,  $p<0.001\%$ ), WsumC ( $F=9.027$ ,  $df=2$ ,  $p<0.001\%$ ), EA ( $F=6.189$ ,  $df=2$ ,  $p<0.005\%$ ), EA ( $F=$

6.189,  $df=2$ ,  $p<0.005\%$ ), EBPervasive ( $F=4.039$ ,  $df=1$ ,  $p<0.05\%$ ) の全てにおいて主効果が有意であった。下位検定の結果, R では内向型と外拡型は不定型よりも, M では内向型が外拡型と不定型よりも, 高くなっていた。WSumC では, 外拡型が内向型と不定型よりも高く, EA では内向型が不定型よりも高いことがわかった。また, 表7で示されたように, PTI (知覚と思考の指標) が4以上の被験者は内向型にのみ見られた。DEPI (抑うつ指標) と CDI (対処力不全指標) については, 不定型のうち50%が DEPI 5以上で陽性, 70%が CDI 4以上で陽性であった。外拡型においても63.3%が DEPI 陽性, 63.2%が CDI 陽性であった。内向型では DEPI 陽性, CDI 陽性の被験者は半数を超えなかった。

## 2) TAT 反応内容の分類

TAT 図版のうち, カード5, 7GF, 8BM, 18GFの4図版を選択し, 各図版における被験者の反応を表1, 2, 3, 4に従い, カテゴリー化し, 表8に示した。表8をもとに, 各図版における各カテゴリーの度数を求め, 表9, 10, 11, 12に示した。表9, 10, 12には, 鈴木(1997)の報告した大学生女子100名(平均年齢20.3歳)の結果を併記した。なお, カード8BMについては, 鈴木にデータに大学生女子のものがいないために, 本研究結果のみを示した。カード5の反応分類については, 表9に示されたように, カテゴリーIIが32%を占めていた。カード7GFの反応分類では, カテゴリーI 67%, II 10%, III 23%であり, 鈴木のカテゴリーI 82%, II 3%, III 15%と比べ, II, IIIの割合が多かった(表10参照)。カード8BMの反応分類では, カテゴリーIIが54%でカテゴリーIの20%よりも多かった(表11参照)。カード18GFの反応分類については, 表12に示されたように, 鈴木にデータのうち50%がカテゴリーI iiに含まれるのに対して, 本研究では16%であった。また本研究では, カテゴリーII i 35%, II ii 22%に対して, 鈴木にデータはそれぞれ6%, 16%であった。

## 3) 体験型による TAT 反応内容の差

EAが3.5以下の場合, EBのデータが貧弱すぎて対処スタイルの識別が確実なものかどうかの保証が得られない(Exner, 2002)と考えられることから, EAが3.5以下の被験者を分析の対象から除外した。該当する被験者は, 不定型のうち, 被験者番号3, 4, 80, 83の4名, 内向型のうち, 被験者番号66, 68の2名, 外拡型のうち, 被験者番号23の1名であった。したがって, 不定型26名, 内向型49名, 外拡型18名の計93名を分析の対象とし, 各体験型に含まれる被験者を  $L<1.0$  か  $L>0.99$  かで分類し, 図版別に反応カテゴリーの度数を求めた。

カード5の体験型別反応分類を表13に示した。体験型の間に, 反応内容による比率に差があるかどうかを見るために, 表13をもとに,  $3 \times 5$  の  $\chi^2$  検定を行ったところ, 5%水準で有意差

表5 被験者別口・テストの各種指標（その1）

体験型	被験者 番号	R (反応数)	L (ラムダ)	EB (左辺)	EB (右辺)	EA	EBper	S-CON	PTI	DEPI	CDI	HVI	OBS	COP	AG	MOR	a	p
不定型 (N = 30)	1	22	0.47	4	2.5	6.5	NA	5	3	5	5	N	N	1	0	3	3	6
	2	22	0.47	4	3.5	7.5	NA	6	3	3	2	N	N	2	0	0	2	4
	3	32	<b>3.57</b>	1	1	2	NA	6	3	3	4	YES	N	0	0	0	2	3
	4	26	0.37	1	2	3	NA	5	3	5	5	N	N	0	0	0	3	10
	5	18	0.64	4	3	7	NA	3	1	2	0	N	N	0	3	1	4	5
	6	16	0.45	3	2	5	NA	4	0	3	5	N	N	0	0	1	2	5
	7	21	0.5	3	2	5	NA	5	3	6	5	N	N	0	0	3	3	5
	8	22	0.38	4	4	8	NA	5	2	6	3	YES	N	0	0	0	3	4
	9	16	<b>1.29</b>	4	2.5	6.5	NA	4	1	4	3	YES	N	1	1	0	4	3
	10	27	0.23	5	4.5	9.5	NA	4	1	3	3	N	N	0	0	2	9	8
	11	15	0.5	2	2.5	4.5	NA	4	0	5	5	N	N	1	0	1	3	2
	12	17	0.55	3	2.5	5.5	NA	1	0	3	5	N	N	1	0	0	2	6
	13	25	0.56	3	2.5	5.5	NA	3	1	5	5	N	N	0	0	3	2	5
	14	34	<b>1.27</b>	3	4	7	NA	4	2	5	4	N	N	0	0	2	2	3
	15	17	0.7	2	2	4	NA	4	0	3	4	N	N	1	0	0	3	3
	16	20	0.18	2	3	5	NA	6	0	6	5	N	N	0	0	1	0	17
	17	17	0.31	2	3	5	NA	5	0	3	5	N	N	0	0	1	2	9
	18	23	0.28	5	3.5	8.5	NA	6	1	5	5	YES	N	0	0	1	4	10
	19	26	0.13	7	8	15	NA	4	0	4	4	N	N	0	1	0	7	10
	20	19	0.58	4	2.5	6.5	NA	3	0	2	0	N	N	2	0	0	2	2
	78	32	<b>1.29</b>	5	5	10	NA	4	2	5	3	N	N	0	1	1	4	2
	80	14	<b>3.67</b>	0	1.5	1.5	NA	5	2	4	3	N	N	0	0	0	0	1
	81	18	0.8	3	2.5	5.5	NA	3	2	2	4	N	N	1	0	2	3	6
	82	25	<b>1.08</b>	2	2	4	NA	3	0	4	5	N	N	0	0	0	2	5
	83	21	<b>3.2</b>	1	1.5	2.5	NA	6	1	3	4	N	N	0	0	1	3	2
	84	17	0.7	4	2.5	6.5	NA	5	1	5	4	N	N	1	0	2	1	4
	85	22	0.57	4	2.5	6.5	NA	5	0	6	4	N	N	0	0	1	1	10
	87	28	0.33	6	6.5	12.5	NA	6	0	7	5	N	N	0	0	2	5	11
	88	31	<b>1.07</b>	5	4	9	NA	5	3	7	4	N	N	0	0	2	1	7
	89	38	0.31	9	9.5	18.5	NA	6	3	7	2	YES	N	2	1	3	10	11
内向型 (N = 51)	26	32	0.52	13	4	17	3.3	6	4	5	3	N	N	3	1	4	8	10
	27	22	0.29	9	2	11	4.5	5	5	5	4	N	N	1	0	2	2	11
	28	42	0.27	12	9	21	1.3	7	4	6	4	N	N	0	0	17	5	23
	29	18	0.8	7	0.5	7.5	7	3	3	3	2	N	N	3	1	2	2	7
	30	35	0.17	14	2	16	7	3	4	4	4	N	N	0	4	2	15	17
	31	22	0.16	14	4.5	18.5	3.1	5	3	4	1	N	N	2	2	1	9	11
	32	25	0.92	5	1	6	5	5	3	4	4	N	N	0	0	4	2	7
	33	28	0.12	9	4	13	2.3	6	2	6	4	N	N	3	0	2	6	13
	34	50	0.39	11	7	18	1.6	9	3	7	5	N	N	0	0	5	3	17
	35	38	0.41	14	7	21	2	5	3	5	3	YES	N	0	0	1	9	12
	36	43	0.19	19	9.5	28.5	2	4	3	6	3	N	N	1	2	7	14	23
	37	15	0.67	4	0.5	4.5	4	5	1	3	3	N	N	2	0	0	3	5
	38	31	0.94	7	0.5	7.5	7	4	3	5	3	N	N	1	0	3	2	12
	39	34	0.55	5	3	8	1.7	5	3	6	5	YES	N	1	1	3	1	9
	40	36	0.38	12	7	19	1.7	7	3	6	2	N	N	1	2	3	13	12
	41	25	<b>2.13</b>	6	1	7	6	4	3	4	3	YES	N	0	1	0	2	5
	42	23	0.77	6	1.5	7.5	4	3	2	2	3	N	N	2	0	2	3	7
	43	19	0.08	10	2.5	12.5	4	7	1	3	2	N	N	3	1	2	5	14



表5 被験者別口・テストの各種指標 (その2)

体験型	被験者 番号	R (反応数)	L (ラムダ)	EB (左辺)	EB (右辺)	EA	EBper	S-CON	PTI	DEPI	CDI	HVI	OBS	COP	AG	MOR	a	p
内向型 (N = 51)	44	46	0.92	8	3.5	11.5	2.3	5	3	4	3	YES	N	2	0	0	7	10
	45	18	0.29	4	1.5	5.5	2.7	4	0	4	5	N	N	0	0	0	3	10
	46	21	0.4	5	2.5	7.5	2	5	0	5	5	N	N	0	0	2	6	5
	47	28	0.65	8	3	11	2.7	6	1	6	3	YES	N	0	0	1	0	10
	48	29	0.21	11	8	19	1.4	7	1	5	2	N	N	1	2	4	9	9
	49	21	0.24	7	1.5	8.5	4.7	5	2	6	3	YES	N	1	0	0	3	8
	50	21	0.62	6	3.5	9.5	1.7	5	1	4	3	YES	N	1	1	4	4	7
	51	31	0.82	4	2	6	2	5	0	3	4	N	N	1	0	1	7	7
	52	23	1.3	4	0.5	4.5	4	3	2	3	4	N	N	0	0	0	2	7
	53	21	0.91	4	1	5	4	2	0	4	3	N	N	0	0	0	4	2
	54	32	0.33	12	6	18	2	3	3	5	2	YES	N	3	0	3	12	12
	55	21	0.91	4	0.5	4.5	4	6	3	5	5	N	N	0	0	0	2	8
	56	25	2.57	4	0.5	4.5	4	3	0	3	3	N	N	2	0	0	2	4
	57	22	0.29	10	4	14	2.5	2	3	2	1	YES	N	2	0	1	10	6
	58	24	1.67	4	0.5	4.5	4	2	0	2	4	YES	N	0	0	0	2	6
	59	24	0.41	7	3	10	2.3	3	1	5	3	N	N	1	0	1	6	4
	60	32	0.52	9	6.5	15.5	1.4	4	3	4	2	YES	N	4	1	3	8	9
	61	29	0.71	8	5	13	1.6	6	3	4	2	YES	N	3	0	0	4	6
	62	21	0.91	5	1.5	6.5	3.3	3	2	4	2	YES	N	0	0	0	3	3
	63	31	0.48	7	2	9	3.5	4	0	3	4	N	N	0	0	2	2	12
	65	16	0.6	3	1	4	3	7	0	2	4	N	N	1	0	2	3	5
	66	29	1.9	2	0	2	2	4	2	4	4	N	N	1	0	2	2	4
	67	30	1.31	4	2	6	2	2	0	4	2	N	N	1	0	0	6	3
	68	20	1.5	3	0.5	3.5	3	2	0	2	4	N	N	0	1	1	1	4
	69	44	0.76	15	6	21	2.5	4	3	5	3	YES	N	0	2	2	3	18
	70	17	0.89	4	1	5	4	2	2	3	2	N	N	2	0	0	5	1
	71	32	0.45	7	4	11	1.8	5	1	7	4	N	N	0	2	1	5	12
	72	24	0.5	6	2.5	8.5	2.4	4	0	4	3	N	N	0	0	2	1	13
	73	17	0.89	5	3	8	1.7	4	1	3	2	YES	N	0	0	0	2	5
	74	23	0.53	6	2.5	8.5	2.4	4	0	4	3	N	N	0	2	0	4	8
	75	50	1.27	7	3.5	10.5	2	6	3	6	3	N	N	1	1	0	6	5
	76	46	0.44	14	11.5	25.5	1.2	4	3	5	4	YES	N	0	1	0	2	18
	77	33	0.74	7	4.5	11.5	1.6	5	2	4	3	YES	N	0	0	0	3	13
外拡型 (N = 19)	21	28	0.33	3	6	9	2	7	0	4	4	N	N	0	0	2	4	6
	22	38	0.65	4	7.5	11.5	1.9	6	1	5	4	YES	N	0	0	3	6	10
	23	24	1.18	0	2	2	2	6	0	5	5	N	N	0	0	0	1	1
	24	25	0.92	1	3.5	4.5	3.5	4	1	7	5	N	N	0	1	1	2	4
	25	24	1.18	2	4.5	6.5	2.3	2	0	3	1	N	N	0	1	0	2	3
	90	43	1.87	3	5	8	1.7	4	2	4	4	N	N	0	0	0	1	6
	91	20	0.43	3	5	8	1.7	7	2	6	4	YES	N	0	1	2	4	6
	92	17	0.89	2	4.5	6.5	2.3	4	3	4	2	N	N	0	0	1	3	2
	93	46	0.77	6	10	16	1.7	7	3	7	2	N	N	1	2	1	9	8
	94	24	0.26	2	6.5	8.5	3.3	6	0	4	4	N	N	0	0	2	6	4
	95	16	0.45	2	4.5	6.5	2.3	7	2	5	3	N	N	1	0	0	3	4
	96	28	1.15	1	3.5	4.5	3.5	4	2	5	4	YES	N	0	0	1	0	1
	97	25	0.19	3	6	9	2	6	0	6	5	N	N	1	0	2	2	8
	98	53	1.3	4	6	10	1.5	7	3	7	3	YES	N	0	0	1	6	3
	99	37	0.42	6	13	19	2.2	8	3	6	3	N	N	2	1	8	6	10
	100	31	0.72	3	8	11	2.7	4	0	4	3	N	N	1	0	1	2	6
	101	24	0.33	3	7	10	2.3	9	3	6	4	YES	N	0	0	0	10	3
	102	50	1	4	6.5	10.5	1.6	7	3	7	4	YES	N	1	1	3	7	10
	103	30	1.31	1	3	4	3	6	2	3	5	N	N	0	0	1	2	5

表6 体験型別による変数の平均

平均 (SD)

変数	不定型 (N=30)		内向型 (N=51)		外拡型 (N=19)	
	L<1.0 (N=22)	L>0.99 (N=8)	L<1.0 (N=43)	L>0.99 (N=8)	L<1.0 (N=12)	L>0.99 (N=7)
R	<b>22.70 (6.08)</b>		<b>28.22 (8.98)</b>		<b>30.68 (10.58)</b>	
	21.64 (5.17)	25.63 (7.33)	28.21 (9.03)	28.25 (8.74)	27.58 (8.62)	36.00 (11.48)
LAMBDA	<b>0.88 (0.92)</b>		<b>0.72 (0.52)</b>		<b>0.81 (0.44)</b>	
	0.46 (0.17)	2.06 (1.11)	0.54 (0.26)	1.71 (0.44)	0.53 (0.24)	1.28 (0.26)
M	<b>3.50 (1.80)</b>		<b>7.67 (3.78)</b>		<b>2.79 (1.54)</b>	
	3.82 (1.77)	2.63 (1.80)	8.30 (3.74)	4.25 (1.48)	3.17 (1.46)	2.14 (1.46)
WSumC	<b>3.27 (1.85)</b>		<b>3.24 (2.65)</b>		<b>5.89 (2.50)</b>	
	3.48 (1.96)	2.69 (1.37)	3.64 (2.66)	1.06 (1.07)	6.79 (2.53)	4.36 (1.51)
EA	<b>6.77 (3.59)</b>		<b>10.90 (6.11)</b>		<b>8.68 (3.95)</b>	
	7.30 (3.63)	5.31 (3.06)	11.94 (6.02)	5.31 (2.41)	9.96 (3.91)	6.50 (2.95)
EBPervasive			<b>3.00 (1.48)</b>		<b>2.29 (0.61)</b>	
			2.93 (1.50)	3.38 (1.32)	2.33 (0.55)	2.23 (0.70)

が見られた ( $\chi^2=19.347$ ,  $df=8$ )。下位検定の結果、内向型が、不定型や外拡型に比べて、カテゴリーⅡの比率が大きいことがわかった。

カード7 GF の体験型別反応分類を表14に示した。表13をもとに、 $3 \times 6$  の  $\chi^2$  検定を行ったが、有意な差は見られなかった ( $\chi^2=14.468$ ,  $df=10$ )。また、カード8 BM の体験型別反応分類を表15に示した。表15をもとに、 $3 \times 5$  の  $\chi^2$  検定を行ったが、有意ではなかった ( $\chi^2=2.647$ ,  $df=8$ )。

カード18GF の体験型別反応分類を表16に示した。表16をもとに、 $3 \times 5$  の  $\chi^2$  検定を行ったところ、5%水準で有意であった ( $\chi^2=16.639$ ,  $df=8$ )。下位検定の結果、内向型と不定型では、カテゴリーⅡ i がⅡ ii よりも高く、外拡型では、Ⅱ ii がⅡ i よりも高くなっていた。また、内向型はカテゴリーⅠ i よりもⅠ ii の比率が高く、不定型はⅠ ii よりもⅠ i の比率が高くなっていた。

#### 4) 体験型別事例における TAT 反応内容とロ・テストの各種変数

不定型は、カード5の反応分類では、Ⅰ i 1 が最も多く38.5%であった。カード7 GF では、Ⅰ i 2 (26.9%)、Ⅲ (23.1%) が多かった。カード8 BM では、Ⅱ i (30.8%)、Ⅱ ii (26.9%)、カード18GF では、Ⅱ i (40.2%) が最も多かった。

被験者番号17は、すべての図版で不定型に多いカテゴリーに該当していた。ロ・テストでは、 $R=17$ ,  $EA=5$ ,  $CDI=5$ ,  $a < p+1$ ,  $AG=0$ ,  $MOR=1$  であった。TAT 各図版の反応内容は次の

表 7 体験型別による 変数の度数

変 数	不定型 (N=30)	内向型 (N=51)	外拡型 (N=19)
L>0.99	8 (26.7%)	8 (15.7%)	7 (36.8%)
EA<4.0	4 (13.3%)	2 ( 3.9%)	1 ( 5.3%)
S-CON= 0	0	0	0
1~5	23 (76.3%)	39 (76.5%)	6 (31.6%)
6	7 (23.3%)	6 (11.8%)	5 (26.3%)
7	0	5 ( 9.8%)	6 (31.6%)
<b>8 or 9</b>	<b>0</b>	<b>1 ( 2.0%)</b>	<b>2 (10.5%)</b>
PTI= 0	11 (36.7%)	12 (23.5%)	6 (31.6%)
1or2	12 (40.0%)	16 (31.4%)	7 (36.8%)
3	7 (23.3%)	19 (37.3%)	6 (31.6%)
4	<b>0</b>	<b>3 ( 5.9%)</b>	<b>0</b>
5	<b>0</b>	<b>1 ( 2.0%)</b>	<b>0</b>
DEPI= 2or3	11 (36.7%)	14 (27.5%)	2 (10.5%)
4	4 (13.3%)	16 (31.4%)	5 (26.3%)
5	<b>8 (26.7%)</b>	<b>11 (21.6%)</b>	<b>4 (21.1%)</b>
6	4 (13.3%)	<b>8 (15.7%)</b>	<b>4 (21.1%)</b>
7	<b>3 (10.0%)</b>	<b>2 ( 3.9%)</b>	<b>4 (21.1%)</b>
CDI= 0~2	4 (13.3%)	13 (25.5%)	3 (15.8%)
3	5 (16.7%)	19 (37.3%)	4 (21.1%)
4	<b>9 (30.0%)</b>	<b>14 (27.5%)</b>	<b>8 (42.1%)</b>
5	<b>12 (40.0%)</b>	<b>5 ( 9.8%)</b>	<b>4 (21.1%)</b>
HVI Positive	5 (16.7%)	17 (33.3%)	6 (31.6%)
OBS Positive	0	0	0
COP = 0	20 (66.7%)	24 (47.1%)	13 (68.4%)
1	7 (23.3%)	14 (27.5%)	5 (26.3%)
2	3 (10.0%)	7 (13.7%)	1 (5.3%)
3~	0	6 (11.8%)	0
AG = 0	25 (83.3%)	33 (64.7%)	13 (68.4%)
1	4 (13.3%)	9 (17.6%)	5 (26.3%)
2	0	6 (11.11%)	1 ( 5.3%)
3~	1 ( 3.3%)	4 ( 7.8%)	0
MOR = 0, 1	20 (66.7%)	26 (51.0%)	12 (63.2%)
2	6 (20.0%)	12 (23.5%)	4 (21.1%)
3~	4 (13.3%)	13 (25.5%)	2 (10.5%)
a>p+1	1 ( 3.3%)	5 ( 9.8%)	3 (15.8%)
a+1<p	17 (56.7%)	38 (74.5%)	10 (52.6%)
a=p	12 (40.0%)	8 (15.7%)	6 (31.6%)

通りであった。

カード 5 「息子を起こしに行こうと思って、母親がドアを開けると、息子は部屋に居なくて、あれどうしたのかしら？どこに行ったんだろうと、思っている。終わり。(未来は？) 息子は

表 8 被験者別 TAT 反応内容分類

(N=100)

体験型	被験者 番 号	カード 5	カード 7 GF	カード 8 BM	カード 18GF	体験型	被験者 番 号	カード 5	カード 7 GF	カード 8 BM	カード 18GF
不定型 (N = 30)	1	I i 1Aa	I i 2A	II i 1A	I i 2	内向型 (N = 51)	26	II v	III i 1	III	III iv
	2	I i 1Ab	III ii 2	II i 1A	I i 2		27	I i 1Ab	II ii	III	I ii 2
	3	I ii 1	I i 1	III	II ii 1		28	II v	I i 2A	II i 1A	II i 1
	4	I ii 1	I iv 2	II ii 2B	I ii 2		29	II vi	I i 1	II ii 1A	III iv
	5	I i 1Aa	I i 2A	II ii 2B	I ii 2		30	I ii 1	III i 2	III	II i 2
	6	I i 1Aa	I iii 1	I i 2A	II ii 2		31	II iii	I i 1	I ii 2	III iv
	7	I ii 5	I i 1	III	II i 1		32	II iii	I iii 2	II ii 2 B	II i 1
	8	II ii	I i 2D	II i 1A	I i 2		33	I i 2Bb	I i 1	I i 2A	I i 2
	9	I i 2B a	I i 2A	II ii 2A	I i 2		34	I i 1Aa	I i 1	II i 1A	I i 2
	10	I i 2C	II ii	I iii	II i 2		35	II vii	I i 2A	I ii 2	I i 1
	11	I i 2Ba	II i	III	II i 1		36	I ii 1	I iv 1B	I iv	II i 2
	12	I i 2Ac	I i 1	I iii	I ii 2		37	II i	I ii 2	II i 1A	II i 2
	13	I i 1Aa	III ii 2	II i 1A	II i 1		38	II iv 2	III i 2	I i 2B	I ii 2
	14	II v	I i 2A	I ii 2	I i 2		39	II i	III i 1	II ii 2A	II i 2
	15	II v	I iv 1B	I iv	II ii 2		40	II vi	I i 2A	I i 1	III vi
	16	I i 2C	I i 1	II i 1A	II i 2		41	I i 1Aa	III i 2	II i 2B	II ii 2
	17	I i 1Ab	III i 2	II i 1A	II i 1		42	II vi	I iii 1	II i 1B	I ii 2
	18	I ii 1	I iv 2	II ii 2A	II i 2		43	II ii	III i 1	III	II i 2
	19	II v	I iii 2	II ii 1 B	I i 1		44	I i 2C	I i 1	II i 1A	I ii 1
	20	I i 1 B	I i 1	II ii 1A	II i 2		45	II vii	I i 1	II i 1A	I ii 2
	78	I ii 4	I i 2A	IV	II i 2		46	I i 1Ab	I i 1	I i 2B	II ii 1
	80	I i 4	I iv 2	III	II ii 2		47	I ii 1	III i 2	II i 1B	I ii 1
	81	II vii	I iv 1A	III	II i 2		48	I i 2Ab	I i 1	II i 2B	II i 2
	82	I i 1B	I i 1	II i 1A	I i 1		49	I ii 3	I i 1	II ii 1B	I ii 1
	83	I i 2Ac	III i 2	I ii 2	II ii 2		50	II vi	III i 1	I ii 1	II i 2
	84	I ii 5	I iv 1B	II ii 2A	III i 1		51	II i	I iii 2	II ii 1A	II i 2
	85	I i 2Ba	III i 2	III	II ii 2		52	I ii 1	I i 1	II i 1A	II i 2
	87	I i 1B	I i 2B	II i 1B	II i 2		53	II v	III i 1	IV	I ii 2
	88	I i 1Ab	III ii 2	I iii	II ii 2		54	I i 4	I i 1	III	II ii 2
	89	I i 2C	III i 2	II ii 1B	II i 2		55	I i 2Bb	III ii 1	I i 2B	I i 1
外拡型 (N = 19)	21	I i 4	I i 2A	I ii 2	I i 2		56	I ii 2	III ii 2	II ii 2A	II i 2
	22	II v	III ii 1	II i 1 A	II i 2		57	II iv 1	I iv 1A	II i 1A	II i 2
	23	I ii 1	III ii 2	II ii 1B	I i 2		58	I i 2C	I i 1	III	I ii 2
	24	I i 1Aa	I iv 1 A	I iii	II ii 1		59	I i 2Bb	I i 2A	III	II i 2
	25	I ii 1	I iv 2	I i 2A	II ii 2		60	I i 1Ab	I i 2 B	III	II ii 1
	90	I i 4	I i 1	III	I ii 2		61	I i 2Ba	I iv 2	II i 1A	II i 1
	91	I ii 2	II i	II i 1A	I i 1		62	II vii	II ii	II i 1A	II i 1
	92	II vi	I iv 1A	III	III i 1		63	I ii 1	I ii 2	II i 1A	I ii 1
	93	II vii	I i 1	II i 1A	III vi		65	I i 4	I iii 1	II i 1A	II i 2
	94	I i 2C	I i 1	II i 1B	II i 2		66	I i 1Ab	III i 2	III	II ii 1
	95	I i 1C	I i 1	II i 1A	I ii 1		67	II ii	I i 2A	III	II ii 1
	96	II i	I i 1	II ii 1A	II ii 2		68	I i 2Ba	I iii 1	III	II i 2
	97	I i 2Bb	II i	II i 2A	I i 2		69	I ii 1	II i	III	III i 2
	98	I ii 1	II i	II ii 1A	III i 2		70	I i 2Ba	III i 2	II i 1A	I i 2
	99	III	I i 1	I ii 2	III iv		71	II v	I iii 2	II i 1A	II i 2
	100	I ii 1	I i 1	II ii 1A	II ii 1		72	II vi	II ii	III	II i 2
	101	I i 1Aa	I iv 1B	III	II ii 2		73	II v	I iv 1A	I i 2B	II i 1
	102	III	I iv 1A	II ii 1B	II ii 1		74	I i 5	I i 1	II i 1A	I i 1
	103	II iii	III i 2	IV	II ii 2		75	I i 2Ba	II i	II i 1A	II ii 2
							76	I i 2Ab	I iii 2	II ii 2A	II ii 2
							77	I ii 1	I i 1	IV	I ii 1

表9 カード5の反応分類 N=100

カテゴリー	度数	計	鈴木 1997(N=100)
I i 1 A a	8	19	35
I i 1 A b	7		
I i 1 B	3		
I i 1 C	1		
I i 2 A b	2	27	43
I i 2 A c	2		
I i 2 B a	7		
I i 2 B b	4		
I i 2 C	6		
I i 4	5		
I i 5	1		
I ii 1	14	20	14
I ii 2	2		
I ii 3	1		
I ii 4	1		
I ii 5	2		
II i	4	32	4
II ii	3		
II iii	3		
II iv 1	1		
II iv 2	1		
II v	9		
II vi	6		
II vii	5		
III	2	2	4
計		100	100

表11 カード8 BM の反応分類 N=100

カテゴリー	度数	計
I i 1	1	20
I i 2 A	2	
I i 2 B	4	
I ii 1	1	
I ii 2	6	
I iii	4	
I iv	2	
II i 1 A	26	34
II i 1 B	4	
II i 2 A	1	
II i 2 B	3	
II ii 1 A	6	20
II ii 1 B	5	
II ii 2 A	6	
III	22	22
II	4	4
計		100

表10 カード7 GF の反応分類 N=100

カテゴリー	度数	計	鈴木 1997(N=100)
I i 1	27	27	42
I i 2 A	11	14	4
I i 2 B	2		
I i 2 D	1		
I ii 2	2	11	24
I iii 1	4		
I iii 2	5		
I iv 1 A	6	15	12
I iv 1 B	4		
I iv 2	5		
II i	6	10	3
II ii	4		
III i 1	5	23	15
III i 2	11		
III ii 1	2		
III ii 2	5		
計		100	100

表12 カード18GF の反応分類 N=100

カテゴリー	度数	計	鈴木 1997(N=100)
I i 1	6	17	24
I i 2	11		
I ii 1	6	16	50
I ii 2	10		
II i 1	9	35	6
II i 2	26		
II ii 1	8	22	16
II ii 2	14		
III i 1	2	10	4
III i 2	2		
III iv	4		
III vi	2		
計		100	100

表 13 カード 5 の反応分類 (EA≤3.5 除外)

度数 (%)

カテゴリー	不定型 (N=26)			内向型 (N=49)			外拡型 (N=18)		
	L<1.0	L>0.99	Sum	L<1.0	L>0.99	Sum	L<1.0	L>0.99	Sum
I i 1Aa	4	0	4	1	1	2	2	0	2
I i 1Ab	2	1	3	3	0	3	0	0	0
I i 1B	2	1	3	0	0	0	0	0	0
I i 1C	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			<b>10(38.5%)</b>			<b>5(10.2%)</b>			<b>3(16.7%)</b>
I i 2Ab	0	0	0	2	0	2	0	0	0
I i 2Ac	1	0	1	0	0	0	0	0	0
I i 2Ba	2	1	3	2	1	3	0	0	0
I i 2Bb	0	0	0	3	0	3	1	0	1
I i 2C	3	0	3	1	1	2	1	0	1
I i 4	0	0	0	2	0	2	1	1	2
I i 5	0	0	0	1	0	1	0	0	0
			<b>7(26.9%)</b>			<b>13(26.5%)</b>			<b>4(22.2%)</b>
I ii 1	1	0	1	6	1	7	1	2	3
I ii 2	0	0	0	0	1	1	1	0	1
I ii 3	0	0	0	1	0	1	0	0	0
I ii 4	0	1	1	0	0	0	0	0	0
I ii 5	2	0	2	0	0	0	0	0	0
			<b>4(15.4%)</b>			<b>9(18.4%)</b>			<b>4(22.2%)</b>
II i	0	0	0	3	0	3	1	0	1
II ii	1	0	1	1	1	2	0	0	0
II iii	0	0	0	2	0	2	1	0	1
II iv 1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
II iv 2	0	0	0	1	0	1	0	0	0
II v	2	1	3	5	0	5	1	0	1
II vi	0	0	0	5	0	5	1	0	1
II vii	1	0	1	3	0	3	1	0	1
			<b>5(19.2%)</b>			<b>22(44.9%)</b>			<b>5(27.8%)</b>
III	0	0	0	0	0	0	1	1	2
			<b>(0%)</b>			<b>(0%)</b>			<b>1( 8.3%)</b>
計	21	5	26	43	6	49	12	6	18

表 14 カード 7GF の反応分類 (EA≤3.5 除外)

度数 (%)

カテゴリー	不定型 (N=26)			内向型 (N=49)			外拡型 (N=18)		
	L<1.0	L>0.99	Sum	L<1.0	L>0.99	Sum	L<1.0	L>0.99	Sum
I i 1	4	1	5	12	2	14	5	2	7
			<b>4(19.0%)</b>			<b>12(27.9%)</b>			<b>5(41.7%)</b>
			<b>(L&lt;1.0)</b>			<b>(L&lt;1.0)</b>			<b>(L&lt;1.0)</b>
			<b>5(19.2%)</b>			<b>14(28.6%)</b>			<b>7(38.9%)</b>
I i 2A	2	3	5	4	1	5	1	0	1
I i 2B	1	0	1	1	0	1	0	0	0
I i 2D	1	0	1	0	0	0	0	0	0
			<b>7(26.9%)</b>			<b>6(12.2%)</b>			<b>1( 5.6%)</b>
I ii 2	0	0	0	2	0	2	0	0	0
I iii 1	1	0	1	2	0	2	0	0	0
I iii 2	1	0	1	4	0	4	0	0	0
			<b>2( 7.7%)</b>			<b>8(16.3%)</b>			<b>( 0%)</b>
I iv 1A	1	0	1	2	0	2	2	1	3
I iv 1B	2	0	2	1	0	1	1	0	1
I iv 2	1	0	1	1	0	1	0	1	1
			<b>4(15.4%)</b>			<b>4( 8.2%)</b>			<b>5(27.8%)</b>
II i	1	0	1	1	1	2	2	1	3
II ii	1	0	1	3	0	3	0	0	0
			<b>2( 7.7%)</b>			<b>5(10.2%)</b>			<b>3( 6.7%)</b>
III i 1	0	0	0	5	0	5	0	0	0
III i 2	3	0	3	4	1	5	0	1	1
III ii 1	0	0	0	1	0	1	1	0	1
III ii 2	2	1	3	0	1	1	0	0	0
			<b>6(23.1%)</b>			<b>12(24.5%)</b>			<b>2(11.1%)</b>
計	21	5	26	43	6	49	12	6	18

表 15 カード 8BM の反応分類 (EA ≤ 3.5 除外)

度数 (%)

カテゴリー	不定型 (N=26)			内向型 (N=49)			外拡型 (N=18)		
	L<1.0	L>0.99	Sum	L<1.0	L>0.99	Sum	L<1.0	L>0.99	Sum
I i 1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
I i 2A	1	0	1	1	0	1	0	0	0
I i 2B	0	0	0	4	0	4	0	0	0
I ii 1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
I ii 2	0	1	1	2	0	2	2	0	2
I iii	2	1	3	0	0	0	1	0	1
I iv	1	0	1	1	0	1	0	0	0
			<b>6(23.1%)</b>			<b>10(20.4%)</b>			<b>3(16.7%)</b>
II i 1A	6	1	7	13	2	15	4	0	4
II i 1B	1	0	1	2	0	2	1	0	1
II i 2A	0	0	0	0	0	0	1	0	1
II i 2B	0	0	0	1	1	2	0	1	1
			<b>8(30.8%)</b>			<b>19(38.8%)</b>			<b>7(38.9%)</b>
II ii 1A	1	0	1	2	0	2	1	2	3
II ii 1B	2	0	2	1	0	1	0	1	1
II ii 2A	2	1	3	2	1	3	0	0	0
II ii 2B	1	0	1	1	0	1	0	0	0
			<b>7(26.9%)</b>			<b>7(14.3%)</b>			<b>4(22.2%)</b>
III	4	0	4	9	2	11	2	1	3
			<b>4(15.4%)</b>			<b>11(22.4%)</b>			<b>3(16.7%)</b>
II	0	1	1	2	0	2	0	1	1
			<b>1( 3.8%)</b>			<b>2( 4.1%)</b>			<b>1( 5.6%)</b>
計	21	5	26	43	6	49	12	6	18

表 16 カード 18GF の反応分類 (EA ≤ 3.5 除外)

度数 (%)

カテゴリー	不定型 (N=26)			内向型 (N=49)			外拡型 (N=18)		
	L<1.0	L>0.99	Sum	L<1.0	L>0.99	Sum	L<1.0	L>0.99	Sum
I i 1	1	1	2	3	0	3	1	0	1
I i 2	3	2	5	3	0	3	2	0	2
			<b>7(26.9%)</b>			<b>6(12.2%)</b>			<b>3(16.7%)</b>
I ii 1	0	0	0	5	0	5	1	0	1
I ii 2	2	0	2	5	1	6	0	1	1
			<b>2( 7.7%)</b>			<b>11(22.4%)</b>			<b>2(11.1%)</b>
II i 1	4	0	4	5	0	5	0	0	0
II i 2	7	1	8	13	2	15	2	0	2
			<b>12(46.2%)</b>			<b>20(40.8%)</b>			<b>2(11.1%)</b>
II ii 1	0	0	0	2	1	3	2	1	3
II ii 2	3	1	4	2	2	4	1	3	4
			<b>4(15.4%)</b>			<b>7(14.3%)</b>			<b>7(38.9%)</b>
III i 1	1	0	1	0	0	0	1	0	1
III i 2	0	0	0	1	0	1	0	1	1
III iv	0	0	0	3	0	3	1	0	1
III vi	0	0	0	1	0	1	1	0	1
			<b>1( 3.8%)</b>			<b>5(10.2%)</b>			<b>4(22.2%)</b>
計	21	5	26	43	6	49	12	6	18

戻って来なくて、なんでもかもよくわからず、探し続ける。」(I i 1 Ab)

カード 7 GF 「お母さんが、何か、死んでしまい、新しい奥さんが来たんだけど、その人にこの子はなじめずにずっとお母さんの、死んでしまったお母さんのことをずっと思っていてなかなか心を開けないでいる。で、弟を何か自分が、育てていこうと思ひ、なんかこのお母さんにはなかなか心を開けず、そのまま成長していく。終わり。」(III i 2)

カード 8 BM 「少年は将来医者になりたいと思っていて、で、この子は、男の子は今夢を見  
ていて、将来軍医になって、戦場で、倒れた人を今助ける手術している夢を見ている。」(II i  
1 A)

カード 18 GF 「自分の母親が、痴呆症になり介護が必要となった。その介護が、大変すぎて、  
ついに、あまりにも大変なので、思わず、このお母さんを殺してしまいそうになっている。自  
分のお母さんなのに、首を絞めている自分に気がついて、ハッとしている。何か今お母さんを  
殺しそうになっている、この……なんて言ったらいい、とっさにそのようなことをした自分を  
すごく怖く思っている。将来は、もうこんなじゃダメだと思って、何か、自分がこの家にい  
て母親の介護をし続けても、うまくいかないと思い、専門家に相談しに行く。終わり。」(II i  
1)

被験者番号 1 は、カード 18 GF を除く 3 枚の図版で、不定型に多いカテゴリーに当てはまっ  
ていた。ロ・テストでは、 $R=22$ ,  $EA=6.5$ ,  $DEPI=5$ ,  $CDI=5$ ,  $a < p+1$ ,  $AG=0$ ,  $MOR=3$   
であった。TAT 反応内容は次の通りであった。

カード 5 「これは朝、朝ご飯ができた起こしに来るお母さんです。これは毎朝の光景で  
子どもは自分からなかなか起きる事ができずに、これからもお母さんは起こし続けることにな  
ります。それでこの光景は子どもが自立するまでずっと続きます。」(I i 1 Aa)

カード 7 GF 「この女の子はお嬢様で、今家庭教師に付いて勉強をしています。でも全然女  
の子は勉強に興味がないので、先生の話全然聞いていません。お父さんとお母さんがいつも  
家にいないので女の子は寂しい気持ちで育ってきました。そのおかげで、とても自立心の強く、  
しゃきしゃきした女性に育っています。それで自分が寂しい思いをしたので、温かい家庭を築  
きたいと言う夢を持って生きています。」(I i 2 A)。

カード 8 BM 「この少年は医者のお子で未来の医者です。死体の解剖をしているのを見てい  
るうちにいろんなことを学んでいます。まだあまり解剖学が発達していない時期に最先端の技  
術を見ることができてとても良い環境にいます。この先この少年はとても優秀な医者になれる  
でしょう。」(II i 1 A)

カード 18 GF 「これは仲の良い親子です。ずっと一緒に暮らしてきました。お母さんが年老  
いてからも娘はお母さんの面倒を見つづけました。しかしお母さんは老衰で死んでしまいまし  
た。大切なお母さんを亡くして今、とても悲しんでいます。生き甲斐をなくした娘は他に何か  
することを見つけてがんばりますが、お母さんが死んで間もないうちに亡くなってしまいます。」  
(I i 2)

内向型の反応分類カテゴリーでは、カード 5 で II (44.9%) が最も多く、カード 7 GF で I i 1  
(28.6%), III (24.5%) が多かった。またカード 8 BM では、II i が 38.8%, カード 18 GF で、



II i が40.8%と多かった。

被験者番号28は、カード7GFを除く3枚の図版で、内向型に多いカテゴリーに該当していた。ロ・テストでは、R=42, EA=21, S-CON=7, PTI=4, DEPI=6, CDI=4, COP=0, AG=0, MOR=17,  $a < p + 1$ であった。

カード5 「一分前に何か物音がしました。ボタンとか、ガチャンとか。耳障りな音がした。ちなみに今は深夜です。この女の人はこの家の奥さんで、物音に驚いて様子を伺いに来た。そして彼女が見たものはすさまじい光景だった。泥棒が家の中を荒らしまわっていた。そして彼女は見つかり殺害される。殺害されるので彼女に未来はありません。その泥棒は殺人者となり、逃げ回る生活を送ることでしょう。」(II v)

カード7GF 「この女の子は以前施設にいた。そしてこの子が今持っている人形は施設時代に持っていた人形。彼女は今七歳でお金持ちの家に養女として引き取られた。しかしこの家の両親が忙しい人だったので、いつもこの隣のメイドさんが面倒を見ていた。今もメイドさんが本を読んであげようとしているんだけど、彼女は施設のことを思い出してそっぽを向いている。徐々にメイドさんには心を開くんだけど、忙しくてかまってくれない両親には心を開くことがなく、結局彼女は大きくなった時に、生き別れた本当の両親を探すことになる。」(I i 2A)

カード8BM 「彼は超天才。ストレートに大学を出て、有名な研究者として成功していたが年を追うごとに妄想を抱くようになっていた。彼は今現在、彼の頭の中には医学のためと言うよりは自分の欲求を満たすためや自分の研究のために人体実験をすることを望んでいるが、実際にはそれは不可能なので自分のしたいことを頭の中で想像しているところ。彼はやがて現実と自分の妄想の世界との区別がつかなくなり、今想像しているようなことを実際にしようとしてしまい、つかまって精神病院へ入れられる。」(II i 1A)

カード18GF 「この一家が今すごく危機的な状況にあって、一家心中しようとしていた。お母さんはまずこの息子を大きな階段から突き落として殺した。覚悟してやったんだけどやっぱりつらくて階段の下に横たわる息子を抱き上げて、ごめんねと何度もつぶやいているところ。結局、このお母さんも大量の睡眠薬を飲んで息子の横で死ぬ。」(II i 1)

被験者番号50は、カード8BMを除く3枚の図版で内向型に多いカテゴリーに該当した。ロ・テストでは、R=21, EA=9.5, DEPI=4, HVI 陽性, COP=1, AG=1, MOR=4,  $a < p + 1$ であった。

カード5 「この女の人はメアリーといいます。メアリーは二階にいたんですけど、この部屋は一階です。二階にいたんですけど、下から物音がして、『何かしら、どろぼうかしら?』と思って、下に降りてきました。しかし、ドアを開けましたが、誰もいません。しかし、置いていたはずの家具が、たくさん、落ちていました。『もしかして、ボルターガイストかしら』

と女の人は怖くなって、この後、二階に去っていきました。終わり。」(Ⅱ vi)

カード7GF 「この本を読んでいる女の人は、この赤ちゃんを抱いている人、女の子のお母さんです。だから、この赤ん坊は、この女の子の妹ということになります。……お母さんが、赤ちゃんに、おっぱいをあげていて、お母さんは本を読みたくってこの女の子に赤ちゃんを預けました。この女の子は、『はあ～あ～、赤ちゃんって重いんだな～』とか思いながら、どこか、外を見つめています。そしてこの後、この女の子は、抱いているのに腕が疲れて、お母さんに赤ちゃんを預けてしまいました。終わり。」(Ⅲ i 2)

カード8BM 「この男の人は、秘密結社のボスであり、闇金融にも精通しております。今、この、腹を切り裂かれようとしている男の人は大借金を抱え、自分の腎臓を売ることになってしまいました。それを、この闇金融に精通しているボスが、冷ややかに見つめています。この後この男の人は手術が失敗して死んでしまいました。終わり。」(Ⅰ ii 1)

カード18GF 「この女の人は友人です。しかし、ふとした拍子に、この女の、一方の女の人が自分の旦那と浮気をしていることがばれてしまいました。この二人は争いながら階段を降りて、降りていきましたが、怒りが逆上した女は、一方の女の人首を、絞めてしまいました。この後、この女の人は、やがて死んでしまいます。この女の人は怖くなって、海外に逃亡してしまいました。今、警察に追跡されています。終わり。」(Ⅱ i 2)

外拡型では、カード5で、Ⅱ (27.8%), Ⅰ i 2 (22.2%), Ⅰ ii (22.2%) であった。カード7GFでは、Ⅰ i 1 (38.9%) が多く、カード8BMでⅡ i (38.9%), カード18GFでⅡ ii (38.9%) が多かった。

被験者番号22は、カード5、8BMで外拡型に多いカテゴリーに該当していた。ロ・テストでは、R=38, EA=11.5, DEPI=5, CDI=4, HVI 陽性, COP=0, AG=0, MOR=3,  $a < p + 1$  であった。

カード5 「何か物音がした。この女の人は、何の音だろうと思い、ドアを開けた。猫がいた。猫がいて、部屋中の物を倒していった。その、物凄い光景になっていた。この女の人はその猫を追っ払うが、部屋はぐちゃぐちゃになっていた。もう、やっつけられないという気持ちになってしまったが、うーん、割れた花瓶や、倒れた本を元に戻し、元通りにし、部屋は綺麗に片付いた。終わり。」(Ⅱ v)

カード7GF 「二人は親子で、女の子が抱えている赤ちゃんは、女の子の妹である。お母さんは子供を産んだばかりで、少し、疲れている様子だった。女の子は、そんな母親を助けようと、妹の世話をしている。お母さんは、そんな娘に感謝をし、大好きな小説を読んでいる。自分の妹の世話をする事で、小さい子の世話をするのが大好きになった彼女は、将来、保母さんになる事を目指すようになる。そうして、大きくなってから、彼女は、保母さんになった。

終わり。】(Ⅲ ii 1)

カード 8 BM 「ある一人の男性が銃で撃たれた。今は、戦争中なので、ろくに病院に行く事も出来ないが、敵から隠れる為、洞窟のような中で、その、重症を負った男の手術が行われた。しかし、その手術は、大成功した。それで、一人の男の命は救われた。それをずっと見ていた一人の少年がいた。その一人の少年は、ろくな設備もない、このような環境の中で、ひとりの人間を救う事が出来たこの医者に変な感動を覚えた。それで、少年は、自分は、医師になろうと決意する。戦争中なので、怪我をする人はたくさんいる、その一人一人を診てやって、時には、死ぬ人もいた。まだ、少年には死は重過ぎた。だが、それでも、一生懸命助けようとする心があった。戦争が終わり、世界が平和になった頃、少年は、医者になる為の勉強を本格的に始め、優秀な成績で、学校を卒業し、誰からも愛され、尊敬される医者になった。終わり。】(Ⅱ i 1 A)

カード 18 GF 「この女の人は、んー、この、今、首を絞められている人、女の人を、とても憎んでいた。なぜなら、この女の方は、自分が、愛していた男を取ったからだ。彼女は、それが、とても、許せなかった。取られるくらいなら、殺してしまえと思い、首を絞めている。だが、こんな事をして、何にもならないと思い、途中で止めた。だが、この首を絞められた女は、大騒ぎをして、警察に通報し、この女の方は、殺人未遂で、刑務所に入れられた。何年後、刑務所を出た彼女は、昔好きだった男の人と再会する。男の方は、彼女をずっと待っていてくれたのだ。思ってもいなかった事に、彼女は涙を流し、喜んだ。そして、二人は一緒になった。終わり。】(Ⅱ i 2)

被験者番号 25 は、カード 5、18 GF で、外拡型に多いカテゴリーに当てはまっていた。ロ・テストでは、R=24、L=1.18、EA=6.5、COP=0、AG=1、MOR=0、a≒p であった。

カード 5 「この女の方はこの部屋の隣にいて物音がしたのでその部屋をのぞいてみた。のぞいてみても何もなくて、おかしいと思いながら隣の部屋に戻って、テレビを見ていたのだけど、やっぱり怖いし気になるし、友人に来てもらおうと思って電話した。」(Ⅰ ii 1)

カード 7 GF 「この二人は母子で、娘はお稽古事をいつもサボっていて、で、お母さんは頭に来て、この子に『お稽古事しなかったら遊びに連れて行かないわよ』と言うんだけど、女の子はそんな脅しにも屈せず、手に持っているお人形を持って、『遊びに行ってくる』と出て行った。」(Ⅰ iv 2)

カード 8 BM 「手術台に寝ているのは彼のお父さんで、お父さんが入院している病院に彼はいて、医師から『手術は失敗に終わって、お父さんは残念ながら亡くなりました』と言われて、納得がいなくて、今手術中に何が起きたか想像しているところ。彼は医師を問い詰めて原因を聞き出そうとした。けど、医師は何も話してくれなかった。」(Ⅰ i 2 A)

カード18GF 「この二人は顔見知りで、同じ人を好きになって同じ人と付き合っている。背を向けている女の人が好きな男に他の女がいることを知らない。ここは彼のアパートで彼の部屋から背を向けている女の人が出てきたところで、この顔の見える女の人がこの人と遭遇。彼女は他に女がいることに気づいていて今日偶然遭遇して、背を向けているこの女の人に向かって『私の男に手を出すなよ』と脅しているところ。言われた女の人はおびえて逃げていき、言ったほうはいつもと変わりなく彼のところを訪れた。」(Ⅱ ii 2)

## 4 考 察

### 1) 体験型別にみた口・テストの各種指標

高橋・高橋・西尾(1998)によると、日本人の健常成人の分布は、不定型が最も多く、47%、次に内向型の37%、外拡型15%である。本研究では、内向型(51%)が、不定型(30%)よりも多く、高橋らによる分布とは異なっていた。また、不定型と外拡型において、DEPIとCDI陽性が半数以上を占めていた。このことから、本研究におけるこの2タイプの体験型が、内向型とは異なる心理的特徴を有すると考えられる。

### 2) TAT 反応内容の分類

カード5では、鈴木(1997)の分布とは異なり、カテゴリーⅡが多いことが特徴的であった。鈴木は、非日常的な出来事を物語に導入するカテゴリーⅡについて、語り手自身の強い不安や、母親に対する敵意を抱いていることを思わせると述べている。カード7GFは、鈴木(1997)の分布に比べ、カテゴリーⅡ、Ⅲの割合が高かった。これらのカテゴリーに入る反応は、成人女性から少女への働きかけを取り上げながら拒否や無関心などの非受容的態度に触れない、またはそもそも成人女性から少女への働きかけを見ていないという内容であるが、鈴木も指摘しているように、希薄な母子関係を想像させる。このことと、カード5の結果を考え合わせるならば、本研究における被験者に母子関係の問題を持つ者が多いとすることができるかもしれない。

カード8BMでは、手術・加療する側であるカテゴリーⅡが手術・加療される側のカテゴリーⅠよりも多かった。鈴木は「切る」側と「切られる」側のどちらに同一化するかにより、語り手の能動性-受動性の問題や、身体的苦痛に対する敏感さの度合いを推測することができると述べている。鈴木(1997)の男子大学生100名を対象とした反応の分布では、カテゴリーⅠ58%、Ⅱ30%でⅠの方が多く、攻撃性の表現に性差があると考えられる。カード18GFでは、殺す或いは責める行為のカテゴリーⅡの割合が介抱・介助の行為のカテゴリーⅠよりも多く、被験者の過半数が攻撃性を直接的な形で表現していた。鈴木(1997)の分布では、介抱・介助される人の死・瀕死の

状態に言及していない I ii が半数を占めており、本研究における被験者の攻撃性の強さを推測することができる。

### 3) 体験型による TAT 反応内容の差

Exner (2002) では、体験型は EB により、内向型、外拡型、不定型の 3 タイプに分けられ、LAMBDA (L) が 1 以上か、1 より少ないかにより、さらに回避－内向型、内向型、回避－外拡型、外拡型、回避－不定型、不定型の 6 タイプに分類される。L $\geq$ 1 の回避型は単純化を特徴とし、EB による 3 タイプの各特徴を併せ持つと考えられているが、本研究では、外拡型の被験者数が特に少ないために回避型を除外せずに検討した。Exner によると、内向型は、思考型の人であり、問題解決や意思決定の際に感情の果たす役割は非常に小さく、さまざまな選択肢を考慮し終えるまで行動を遅らせる傾向があり、外からのフィードバックよりも自分の内面での価値判断に頼ろうとすると考えられている。したがって、意思決定の際には他の人より慎重になり、感情表現の調節やコントロールにはより気を使う傾向があると考えられている。外拡型は、Exner によると問題解決や意思決定の際、思考に感情を混じらせる傾向があり、試行錯誤的に仮説や推論を実際に試してみるのを好むと言われる。外拡型の感情表現は率直で、その調節やコントロールにはあまり注意を払わないと考えられる。Exner によると、不定型は、内向型、外拡型のいずれの対処スタイルも示さず、問題解決や意思決定に対する一貫したアプローチを作り上げていないために、感情表出の形も不規則なものになってしまうと考えられている。

これら 3 つの体験型の間に TAT 反応内容に差があるかどうかを検討したところ、カード 5、18GF で有意差があり、カード 7 GF、8 BM では差はなかった。カード 5 では、内向型が、不定型や外拡型よりもカテゴリー II の比率が高かった。日常的な家庭生活を思い浮かべる人が多い（鈴木、1997）と言われるが、カテゴリー II は、室内で非日常的な出来事が生起するという内容である。このことは、内向型の様々な選択肢を考慮するという特徴により、想像されるあらゆる可能性を検討し、その中から『物語』にふさわしい反応が選択されたのではないかと考えられる。カテゴリー II は、鈴木によれば、語り手自身の日常生活の安定に対する不安や、母親に対する敵意と解釈されるが、内向型が他の体験型に比べ不安や攻撃性が強いかどうかは、他の図版における反応内容を検討しなければならないだろう。

カード 18GF では、全ての体験型でカテゴリー II の比率が高く、内向型と不定型で II i（殺そうとする）が II ii（叱る・責める）よりも、外拡型で II ii が II i よりも高かった。このことから、内向型と不定型は、外拡型に比べ、攻撃性をより激しく直接的な形で表現するのではないかと考えられる。また、内向型と不定型は I i（死・瀕死の状態）と I ii（死・瀕死状態に言及していない）の比率で差があり、内向型では I ii が I i よりも、不定型では I i が I ii よ

りも高く、不定型は内向型に比べ間接的な形で攻撃性を表現しやすいと考えられる。これらのことを考え合わせるならば、不定型は、他の体験型と比べ、直接的・間接的な形にかかわらず、攻撃性表現が多いと言えることができる。このことは、不定型で、感情表出の形が不規則なものとなることを裏付けている。

カード7GFと8BMでは、体験型による差はなかった。TAT図版により体験型の差があったりなかったりするかに関しては、本研究では4枚の図版を分析対象としたが、残りの図版についても、体験型による反応内容の差を検討する必要があると考えられる。また、本研究では、不定型と外拗型においてDEPIとCDI陽性が半数以上を占めており、こうした口・テストの指標とTAT反応内容との関連についても検討する必要があると考えられる。

#### 4) 体験型別事例におけるTAT反応内容と口・テストの各種変数

不定型の被験者番号17はCDI陽性で、期待されるよりも社会的に未熟である(Exner, 2002)と考えられる。TAT反応では、カード5, 7GF, 18GFに一貫して流れるテーマは、母と子の相互的な関係性の持ち難さであり、希薄な母子関係を想像させる。攻撃性に関しては能動的に表現されており、カード8BMでは、自我親和的に(鈴木, 1997)語られ、カード18GFでは母親に対する攻撃性が表現された。被験者番号1も不定型で、DEPIとCDIが陽性であり、Exner(2002)によると、社会適応上の困難のために感情の問題が生じる可能性があると考えられる。また、MOR=3で、概念思考は悲観的な構えが目立つと考えられる。TAT反応では、子どもに尽くす母親(カード5)、愛情の大切さ(7GF)、母との共生関係(18GF)が表現され、未熟な母子関係のあり方がうかがえた。また悲観的な思考の構えは、カード18GFの母が死に娘も間もなく亡くなるという内容に表れていた。攻撃性に関しては、カード8BMでは能動的に自我親和的に表現される一方で、カード18GFでは母の死と娘の死という受動的な形で攻撃性が表現されていた。

内向型の被験者番号28は、DEPI=6, CDI=4であり、Exner(2002)によると、感情が混乱した状態にあるが、問題はむしろ慢性的に効果的で実りある対人関係を結んだり維持したりすることができないことにありと解釈される。またMOR=17で、概念思考には悲観的な構えが目立ち、自己イメージにも否定的な特徴が色濃く反映されると考えられる。TAT反応内容では、カード5, 8BM, 18GFで激しい攻撃性の表現が見られた。しかも、悲劇的な結末であり、MORの多さを裏付けるものであった。被験者番号50は、内向型でHVI(警戒心過剰指標)陽性、MOR=4であった。HVI陽性の人は、Exnerによると、外界に対する不信感があり、自己が傷つくことを恐れ、対人関係に非常に警戒的である。TAT反応内容では、外界に対する不安(カード5)や、希薄な母子関係(7GF)、乏しい共感性(8BM)が語られ、対人関係に警

戒心過剰な被験者の心理的特徴が表れていると考えられる。また、攻撃性は、カード18GFに見られるように、直接的に表現され、手術の失敗と死（8 BM）や、殺人と逃亡（18GF）などに悲観的な思考の特徴が見受けられた。

外拡型の被験者番号22は、DEPI=5, CDI=4 で、社会適応上の困難のために感情の問題が生じる可能性がある（Exner, 2002）と考えられる。また、HVI 陽性で、MOR=3 であった。TAT 反応内容では、日常生活の安定に対する不安（カード5）や表面的な母子間のやりとり（7 GF）に、HVI 陽性の特徴である外界に対する不信感や対人関係における警戒心が表れている。MOR=3 から被験者は悲観的な思考の構えを持っていると推測でき、それは戦争（カード8 BM）や刑務所（18GF）という状況に示されていると考えられるが、結末はハッピーエンドであり、外拡型は他の体験型とは、悲観性の表現のし方が異なるのかもしれない。被験者番号25は、回避-外拡型であり、Exner（2002）によると、感情に影響されやすいが、複雑な感情体験を区別できず、感情の影響が不適切なほどに大きすぎるか小さすぎるかのどちらかになってしまう特徴がある。TAT 反応では、一貫して単純なストーリー展開であり、回避型の特徴である単純化傾向が表れていると考えられる。

## 5) 今後の課題

体験型による TAT 反応の内容に差があるかどうかについては、図版により異なる結果が出た。本研究で取り扱った体験型は、EB に基づいた3タイプであったが、LAMBDA の値を取り入れて、回避型を分離した6タイプで比較することが必要であろう。また、事例に示されたように、ロ・テストの各種指標から推測される被験者の心理的特徴は、TAT 反応内容にも表れると考えられ、体験型別に各種指標と TAT 反応内容の関連を検討する必要がある。そのためにも、今後、被験者数を増やし、データを蓄積していくことが望まれる。さらに、本研究で分析の対象とした TAT 図版は、カード5, 7 GF, 8 BM, 18GF の4図版であったが、TAT 反応は図版刺激特性に強く依存する特徴を持っている（山本, 1992）ことを考慮し、残りの他の図版について分析をすることも今後の課題である。

附記 本論文は国際ロールシャッハ学会第18回大会（バルセロナ大会）にてポスター発表したものをもとに、加筆修正したものである。

## 文 献

Ackerman, S. J., Hilsenroth, M. J., Clemence, A. J., Weatherill, R., Fowler, J. C. 2001 Convergent validity of

- Rorschach and TAT scales of object relations. *Journal of Personality Assessment*, 77(2), 295–306.
- Exner, J. E. Jr. 2001 A Rorschach Workbook for the Comprehensive System. Rorschach Workshops, Asheville, North Carolina.
- Exner, J. E. Jr. 2000 A Primer For Rorschach Interpretation. Rorschach Workshops, Asheville, North Carolina. (中村紀子・野田昌道監訳 2002 ロールシャッハの解釈 金剛出版)
- Kelly, F. D. 1997 The Assessment of Object Relations Phenomena in Adolescents TAT and Rorschach Measures. Lawrence Erlbaum Associates, Publishers. Mahwah, New Jersey.
- Murray, H. A. 1943 Thematic Apperception Test manual. Cambridge: Harvard University Press.
- 鈴木睦夫 1997 TAT の世界—物語分析の実際 誠信書房
- 高橋雅春・高橋依子・西尾博行 1998 包括システムによるロールシャッハ解釈入門 金剛出版
- Urist, J. 1977 The Rorschach test and the assessment of object relations. *Journal of Personality Assessment*, 41, 3–9.
- 山本和郎 1992 TAT かかわり分析 東京大学出版会
- 山下京子 2003 TAT 反応に示された対象関係に関する研究 広島女学院大学論集, 53, 1–26.
- 山下京子 2004 TAT とロールシャッハ・テストに示された対象関係 広島女学院大学論集, 54, 1–19.
- Westen, D. 1991 Clinical assessment of object relations using the TAT. *Journal of Personality Assessment*, 56(1), 56–74.